

戦争をやめませんか？

(原文)

村下 乃愛 (13 歳)

東京都

東京学芸大学附属世田谷中学校

「人類は、自然に対して戦争をしている。」

これは、国連のグテーレス事務総長の言葉だ。平和の意味を辞書で調べると、「戦争や争いがなく穏やかなこと」と出てくるが、これは軍事的な戦争のことだけだろうか。確かに、今、世界中で起こっている戦争や争いがなくなれば、たくさんの人々が救われるし、そのような戦争や争いをなくすことはとても重要だ。でも、それに加えて私たちが取り組むべきことは、環境問題を解決することではないだろうか。

ニュースでグリーンランドの氷が溶ける様子やオーストラリアの山火事の映像を見て、私はショックを受けた。グリーンランドでは、1 秒に約 1 万トンの氷が溶けているそうだ。これは、象 2 千匹の重さに当たる。これまで、環境問題についての知識はある程度持っていると感じていたが、環境問題の重さを現実的に実感したことがないことを思い知らされた。この映像での相当な衝撃から、それからというもの、私は普段の日常生活を環境問題と関連させて考えるようになった。結果、私の世界が 180 度変わった。少しの時間だからといって電気をつけっぱなしにしたり、水で濡れた手をふくためにティッシュを無駄遣いしたりというような一つ一つの自分の今までの行動が自然への戦争の手助けをしていたと考えた時、とても恐ろしくなった。今この瞬間にも、環境問題は進行していて、たくさんの人々が苦しんでいるのに、自分がこんなに快適な暮らしをしてしまって良いのかと疑問を持つようになったのだ。

世界は広いように思えて実は狭い。新型コロナウイルスがあっという間に世界中に広まってしまったのと同じように、自分の一つ一つの行動が世界に影響するという危機感をすべての人が持たなければ環境問題は解決しないだろう。もし、100 人でも自分は関係ないと思っている人がいれば、その力は 100 倍以上となって自然を傷つけてしまう。自然を傷つけた人たちは、やがて自分たちまで傷つけることになるだろう。でも、みんなそのことに気が付いていない。

人間は、良い方向にも悪い方向にも自分たちの意志で未来を変えられる力を持っているからこそ、次の世代の人が快適で穏やかに暮らせるように、私たちは行動していかなければならない。まずは、「平和は願うものではなく、作り出していくものだ」という意識を持てるような仕組みづくりをしていくべきだろう。

今の時代、インターネットを使えば世界中の人たちとつながることができる。だから、以前の私のように、環境問題についてあまり重く考えてない人、考えているつもりでいる人のために、被害を受けている世界中の地域の映像や数値から現状を知り、危機感を覚えてもらえるような動画や写真、生の声などを発信していき、日常的に環境問題について触れることができる社会をつくるのが大切なのではないだろうか。

一つでも部品が足りなければ武器が作れないのと同じように、一人でも思いやりの心を持ってない人が増えると環境は壊されていく。反対に一人でも環境のことを考えられる人が増えれば、私たち人類の攻撃を弱めることができる。一人ひとりの意識が変わり、近くのものや人だけでなく、目に見えないものや人までをも思っ、行動できるようになれば、世界はきっと変わる。特に、これからの未来を担っていく私たち若者がそれを理解し、行動を起こしていく必要がある。それは、自然や動物たちのためでもあるが、未来の私たちのためでもある。

私は、みんなの明るくて平和な未来をつくっていくために、自分の生活から見直し、将来的には発信できる立場になりたいと思う。決して、戦争の加害者にならないために。